

共生・公正・創造



東日本タイムズ号外

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【虚構からの訣別を図るべき時期に到達したJ R 東日本！ シリーズ3】 日一日とメッキが剥がれていく「JRの妖怪」その

「JRの妖怪」と称される松崎氏のこれまでの言動や記述を注意してチェックすれば同氏の“本性”や“品性”を感知することは容易である。

...「この組合は嶋田さんが創った」という子分がいるそうだが、「では松崎顧問はどうした」となるんだ。だから、リーダー研修を粉碎されたとき、おそらく会社は大きい飛躍点ですよ。あれはリーダー研修そのものをぶっ壊されるなんて、(会社は)絶対に思っていなかったでしょう。世界の労働運動の中でマル生が粉碎された歴史は世界ではありません。「フィラデルフィア宣言」以降において、おそらく世界でどこにもないです。企業教育としてインフォーマル組織を作り上げるためのフォーマル組織としての企業のためのリーダー研修。それ自身をぶっ壊された経験はないでしょう。これは経営陣にとっては大変なことだ。松崎らの勢力を下からぶっ壊すために、いろいろやってきたのにぶっ壊されちゃった。「これは困ったものだ」という発想があることは間違いない。あの時点で。その時から、通じるものは通じているんです。(松崎明『新塾』講義録)

< JR 東日本の重要な管理者養成教育である「リーダー研修」の粉碎を、世界労働運動史に例を見ない“快拳”だとして松崎氏は誇っている。これも「いやはや」である。 >

リーダー研修のときも「会社に対する動かぬ証拠」を求めて毎晩検討はしていた。しかし証拠など出てこない。そんなとき顧問は、「リーダー研修はマル生だ、中止しろ。証拠？俺はプロだ、ごまかすんじゃない」ということで会社に迫った。(松崎明編著『仇花と崇高な心』p. 411 <林和美記述部分>)

< 証拠もないのに会社を恫喝して「リーダー研修」を中止させた松崎氏。不当な恫喝に屈して企業の生命線とも言える管理者養成教育を中止した会社。どちらもどっち、「いやはや、いやはや」である。

ちなみに、JR 東労組による「リーダー研修中止」要求に対して、当時の労政を担当した大塚(現社長)、清野(現副社長)ラインはかなり頑強に抵抗した(この模様は、当時、“一定の意図”の下に東労組側が作成し、下部組織に配付した「団体交渉記録」資料にその詳細が残されている)が、松田社長(現会長)の決断によって「中止」決定となったと言われている。 >

《国鉄改革の完成に向けて(宗形明著)185ページ~186ページより抜粋》